



皆さんから残して良かったと 思ってもらえる鉄道に

三陸鉄道久慈駅の駅長を務める畑田健司さん。震災学習列車のガイドとして、東日本大震災の記憶を後世に伝えていきます。多くの人から頂いた支援への感謝や三陸鉄道の使命、まちへの思いを聞きました。

リアス線開通で 三陸が一つに

岩手県の沿岸を結ぶリアス線の運行は、明治からの住民の悲願。以前も線路自体はつながっていましたが、一本経営ではなかったため、本来の意味での「三陸縦貫鉄道」になったことは、とても喜ばしいことです。

三陸鉄道は、地元住民と県外を中心とした観光客が主な乗客でしたが、リアス線になったことで、釜石や大船渡などの県南の人が、久慈駅まで来ていただけるようになりました。逆に県



畑田 健司 さん
三陸鉄道株式会社
久慈駅長兼指令長

台風と新型コロナウイルスで 厳しい状況に

北の皆さんも、県南に行く人が増えたと聞いています。現代は車社会で、久慈の人は八戸、宮古の人は盛岡で買物をする人が多いはず。リアス線の開通は、物理的に鉄道が繋がったというより、三陸地域が一つになったという意識の醸成につながったと思っています。

リアス線の開通後は、乗客も増加し、ラグビーワールドカップの開催も重なり、三陸沿岸が盛り上がりつつあると感じていました。しかし、開通からわずか半年後に発生した、台風19号により、大きな被害を受け、運

休しなければならぬ状況になりました。行政や民間からさまざまな支援をいただき、約半年後の令和2年3月に全線開通となりましたが、新型コロナウイルス感染症の流行により、乗客は激減。全線開通という良い流れを、台風と新型コロナウイルスに止められた印象が強いです。

台風と新型コロナウイルスで 厳しい状況に

地方にある鉄道の経営は、どの会社も厳しい状況で、廃線となった鉄道もあります。駅が無くなった地域をみると、地域住民の交通が不便になるだけでなく、観光客も減少していると関係者から聞いています。そういう話を聞くと、鉄道を残す意味があると再認識させられます。

三陸鉄道は、東日本大震災や台風災害のときに、行政や企業はもちろん、たくさんの方の三鉄ファンの皆さんから温かい支援をいただきました。ここで三鉄が無くなつては、応援してくれ



釜石駅～両石駅を走るラッピング車両

記憶を伝える 震災学習列車

人たちに示しがつかないし、期待に込める使命があると思っています。感染症対策に万全を期し、まずは自分たちができることを、最大限に取り組むことが、明日につながると思っています。

今年は東日本大震災から、10年の節目。三鉄というネームバリューを使いながら、震災を語り継いでいかなければなりません。震災からの復旧後に始まった震災学習列車も有名になりましたが、震災の記録を伝えるだけでは、単なる歴史になってしまいます。防災の取り組みや自身が体験した記憶などを伝え、リアル感を出すことが重要です。



快速ポケモントレイン(宮古駅)



新田老駅～根待駅

人の記憶は風化していくもの。この地域は、明治や昭和にも津波に襲われていますが、その事実は知っていても、自分たちが東日本大震災のときにどう対応できたかという、備えも含め、まったく何もできない

残してよかったと思われる鉄道に
あまちゃん効果もあり、久慈も観光地として名前を知ってもらおうようになったと思います。観光で一番重要なのはやっぱり人です。人と人のつながりがあれば、どんな遠くからでも、人は来てくれます。駅で一瞬しか会わない人でも、そ

のときに自分がどう対応するかで、三鉄のイメージが変わり、ひいては久慈・岩手・東北のイメージが変わります。そこでリーダーになってくれるか、二度と来ない人になるかが決まると思います。商店や市民の皆さんも、できる範囲で対応してもらえれば、久慈は良いところだなと感じてくれる人が増えると思います。三鉄はマスコミなどに取り上げられる機会も多いので、いい意味で利用してほしいです。三鉄を残して本当に良かったと、たくさんの方の人たちが感じられる状況になってもらえたら、多少の恩返しになるのかなと思っています。